

1. 研究者になろうとしたきっかけ

白血病をはじめとする小児がんを専門に選び、病気を克服された患者さんと喜び合う一方で、結果的として治らなかった患者さんとベッドサイドで多くの時間を過してきました。

なぜ治らないのか？どうしたら治るのか？と自問自答するなかで、自然と研究にも取り組むようになりました。

2. 助成研究の内容紹介

小児がんで最も多い急性リンパ性白血病では、8割以上の患者さんが治癒するようになりました。

しかし、たくさんの種類の抗がん剤を組み合わせた多剤併用による化学療法を必要とするため、約1年間の入院生活が必要になります。現在行われている多剤併用療法は、個々の抗がん剤の効き具合には患者さんごとに違いがあるため、多剤を組み合わせることで個人差の影響を最小限に抑えようという考え方で行われています。

私たちは、国内の様々な施設の医師によって患者さんの白血病細胞から樹立された細胞株（培養フラスコで持続的に培養が可能な白血病細胞）を収集し、その各化学療法剤に対する感受性を解析して、世界に類のない白血病細胞株の薬剤感受性に関するデータベースを構築しています。

この研究では、白血病細胞株の薬剤感受性に影響する要因を明らかにして、実際の患者さんの薬剤感受性を予測できる検査法を開発することを目指しています。

3. 2の将来に繋がる結果予想

この研究によって各薬剤に対する感受性要因を明らかにすることができれば、将来的には患者さんの白血病細胞の薬剤感受性を予測し、それに基づいて有効な薬剤を重点的に用いる個別化治療が可能になると期待されます。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

このたびは、RFLJの研究助成に採択していただきまして、ありがとうございます。大学の掲示板で本研究基金の募集ポスターを見たとき、「がんってなに？」「すぐ治る病気だよ」という活字が目飛び込んできて釘付けになりました。

小児の急性リンパ性白血病は「ほぼ」治る病気になっていますが、「治る」ためには長期の治療を必要とします。

私たちは、「すぐ治る病気」と言える日を目指して研究に取り組んでおりますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。